

『赤い鳥』のなかのグリム童話

Grimm's Fairy Tales from the Children's Magazine Akai Tori

野口 芳子

NOGUCHI YOSHIKO

要旨

子どもの純性を保全し開発するために創刊された『赤い鳥』(1918-1936)のなかには、グリム童話に由来する話が9話存在する。しかし、それらはグリム童話の原典に忠実な翻訳ではなく、大幅に改変した再話である。鈴木三重吉が言う「子ども」に視点を当てた再話とはどのようなものなのか、グリム版の原本と比較して、その内容を具体的に把握することが本論の目的である。再話の際に忌避された要素は、残酷な表現、悪い姑の存在、礼儀作法に反する言動、教訓などである。重視された要素は罪人を厳罰に処さずに許すこと、服装の色彩を鮮やかにすること、男の子の啓発に主眼を置くことなどである。空想を重視すると公言しながら、空想が掻き立てられる小人や死神などの異界の存在は題名から外され、「幸福になる」という表現は、「金に困ることはなくなる」という現実的で具体的な表現に改変される。『赤い鳥』に収録されたグリム童話の再話を読むと、子どもたちは本当に美しい空想や感情を養うことができるのであろうか。不明であると言わざるを得ない。

Abstract

Akai Tori (Red Bird, 1918–1936), a children's magazine founded to preserve and nurture the innocence of children, presents nine stories adapted from *Grimm's Fairy Tales*. However, they are not faithful translations of the original tales but greatly modified retellings. This essay aims to specifically grasp what Miekichi Suzuki, *Akai Tori* editor, means by “retellings that focus on the child” by comparing these stories with the original Grimm versions. The retelling avoided elements such as cruel expressions, the presence of a wicked mother-in-law, words and deeds against the rules of etiquette, and moral lessons, and emphasized elements such as forgiving sinners without a severe punishment, brightly colored clothing, and a primary focus on enlightening boys. These stories profess to emphasize fantasy, but otherworldly beings such as dwarfs and Godfather Death, through whom fantasy is stirred, are removed from the title, and the expression “you will be happy” is altered to the more realistic and practical “you will have no trouble with money.” Do the retellings of *Grimm's Fairy Tales* in *Akai Tori* really enable children to experience beautiful fantasies and emotions? We must admit that the answer is unclear.

Key Words:

赤い鳥 グリム童話 再話 鈴木三重吉 ジェンダー

Akai Tori (The Red Bird), *Grimm's Fairy Tales*, retelling, Miekichi Suzuki, gender

序論

大正デモクラシーという自由主義を求める風潮のなかで、1918（大正7）年に『赤い鳥』という児童文芸雑誌が鈴木三重吉によって創刊された。「世俗的な下卑た子供の読みものを排除して、子供の純性を保全改發するために、現代第一流の芸術家の真摯なる努力を集め」た画期的な運動であると、創刊号のモットーで謳いあげられている¹。以後、軍国主義が台頭する1936年（昭和11年）に鈴木三重吉が死去し、終刊となるまではほぼ毎年発行され合計196冊刊行された。最盛期の1919（大正8）年には3万部を超える部数を発行して、全国の子ども、教師、保護者に愛読されたという²。

子どもの美しい空想や感情を育てる詩と歌を創作するこの運動は「芸術自由教育」といわれ³、鈴木三重吉は編集者として毎号、西洋童話の再話や日本神話の再話を発表しており、西洋の昔話や創作童話の紹介を積極的に行なっている。西洋昔話に焦点を当て概観すると、ロシア、ドイツ、イギリス、アメリカ、ノルウェー、フランス、ギリシアなどの昔話が再話されている⁴。『赤い鳥』に収録されたロシア由来の昔話は丸尾美保により⁵、フランス由来の民話は佐藤宗子により⁶、明らかにされているが、ドイツおよびグリム童話由来の話についての研究はなされていない。概観する限り、ロシアに続いて多いのがドイツの昔話であるグリム童話の再話である。このことに触れた先行論文は2本存在する。渡辺茂男と王玉の論文である⁷。グリム童話由来とされる話を渡辺は7話、王は10話としている。なお、佐藤宗子が「平気の平左」（小山内薫 2巻2-3号）はグリム童話 KHM4「怖がることを知りたくて旅に出た男の話」を日本化した翻案と指摘しているが⁸、内容がグリム童話とあまりにもかけ離れているので創作童話と判断し⁹、グリム童話の再話には含めていない。

本稿ではまず、先行研究で挙げられている17話を精査し、グリム童話由来のものであるかどうかを検証する。その後、『赤い鳥』全巻（196冊）に収録されている話を通読し、グリム童話由来のものを選び出し、その話の題名と KHM¹⁰題名を照合し、グリム童話由来度の高いものから順に取り上げ、内容を詳しく紹介し検討する。その後、改変内容を分析し、傾向を把握し、改変理由について考察していく。それによって、『赤い鳥』で重視された要素、忌避された要素を明らかにしていく。なお、使用するグリム童話のテキストは決定版（1857）で下記のドイツ語原典である。

Brüder Grimm, *Kinder- und Hausmärchen*. 3Bde. Hrsg. v. Heinz Rölleke. Stuttgart 1980.

第1章 先行研究でグリム童話由来とされている話

1. 渡辺茂男と王玉がグリム由来としている話

1) 渡辺茂男の指摘【表1】

No	発年月	巻号	作者名	『赤い鳥』収録題名	出典	注記	当否
①	1918.9	1-3	佐藤春夫	蛙の王女	グリム	通信欄の記者の回答	✕
②	1918.12	1-6	丹野てい子	命の水	グリム		✕
③	1919.1	2-2特	鈴木三重吉	悪い狐	グリム民話		✕
④	1919.1	2-2特	丹野てい子	石臼塩の話	グリム・北欧民話		✕
⑤	1919.3	2-3	丹野てい子	どんぐり小坊主	グリム	親指小僧の翻案	✕
⑥	1919.4	2-4	丹野てい子	がらすの山	グリム		✕
⑦	1919.4	2-4	島崎藤村	小さなみやげ話 うさぎとはりねずみ	グリム		○

2) 王玉の指摘【表2】(Noが2つ併記されているのは、重複している表1の番号)

No	発表年月	巻号	作(訳)者名	『赤い鳥』収録題名	出典	当否 注記
⑧	1918.11	1-5	野上豊一郎	ボビノが王様になった話	グリム	○
⑨	1918.11	1-5	鈴木三重吉	馬鹿	グリム	✕
⑩②	1918.12	1-6	丹野てい子	命の水	グリム	✕
⑪	1919.1	2-2 特	野上豊一郎	灰色の小人	グリム	✕
⑫④	1919.1	2-2 特	丹野てい子	石臼と塩の話	グリム	✕
⑬⑦	1919.4	2-4	島崎藤村	小さな土産話 — 兎と針鼠	グリム	○
⑭⑥	1919.4	2-4	丹野てい子	がらすの山	グリム	✕
⑮	1919.5-6 1919.7	2-5,6 3-1	久保田万太郎	白い鳥の話(上・中・下)	グリム	○(3巻1号を2巻7号と誤記)
⑯	1921.9	7-3	小山内薫	イルゼベルの望み	グリム	○
⑰	1924.2	12-2	小野浩	正直もの	グリム	○

3) グリム童話由来か否かの調査結果

上記1)の7話と2)の10話のうち重複している話が4話あるので、先行研究でグリム童話由来とされているのは合計13話ということになる。筆者による調査の結果、グリム童話由来の話は【表1】と【表2】で○印をつけた5話のみであることが判明した。①は1918年11月号の通信欄で記者が「あれはGrimmのFairy Talesの中にある話です」と回答しているが¹¹、ロシア民話「蛙の王女」の再話であることを丸尾美保が明らかにしている¹²。丹野てい子の②⑩、④⑫、⑤、⑥⑭はすべてグリム童話ではない。⑥⑭は「ポーランドの民話、ノールウェイ・アスピヨルセン作」と鈴木三重吉が書いているが¹³、ラング童話の再話の可能性もある¹⁴。⑨⑪もグリム童話ではない。結局、先行研究で指摘されたグリム童話由来の話は、⑦⑬KHM187「兎と針鼠」、⑧KHM33「3つの言葉」、⑮KHM49「6羽の白鳥」、⑯KHM19「猟師とその妻」、⑰KHM39-I「小人I」の5話のみということになる。

第2章 『赤い鳥』(196冊)のなかでグリム童話由来の話(筆者調査)

1. 上記に相当する話の一覧表【表3】(題名に付加したのは上記の先行研究番号)

No	発表年月	巻号	作(訳)者名	『赤い鳥』収録題名	KHM	グリム童話題名
1	1918.8	1-2	南部修太郎	小人の謎	55	ルンペルシュティルツヒェン
2	1918.11	1-5	野上豊一郎	ボビノが王様になった話 ⑧	33	3つの言葉
3	1919.4	2-4	島崎藤村	小さな土産話 兎と針鼠 ⑦⑬	187	兎と針鼠
4	1919.5-6 1919.7	2-5,6 3-7	久保田万太郎	白い鳥の話 ⑮	49	6羽の白鳥
5	1921.9	7-3	小山内薫	イルゼベルの望み(少年少女劇) ⑯	19	漁師とその妻
6	1924.2	12-2	(小野浩)鈴木三重吉	正直もの⑰	39-I	小人I
7	1924.9-10	13-3,4	宇野浩二	不思議な金魚	19	漁師とその妻(プーシキン)
8	1926.7	17-1	大木篤(惇)夫	蠟燭をつぐ話	44	死神の名づけ親
9	1927.9	19-3	(内藤三雄)鈴木三重吉	猟師と金の魚	19	漁師とその妻(プーシキン)

2. グリム童話とほぼ同じ内容の再話 (3話 No.1, No.3, No.6)

1) No.1. 1918 (大正7)年8月 1巻2号 南部修太郎「小人の謎」

(1) グリム童話由来である根拠

KHM55では小人の名前はルンペルシュティルツヒェンであるが、ここではフラムシカとなっている。フラムシカ(Хламшюка)とはロシア語で「ちっぽけなゴミ」という意味で、この訳語が出現するのは、ピョートル・ニコラエヴィチ・ポレヴォイ(1839-1902)訳『グリム兄弟の昔話集』である¹⁵。この本はドイツ語版(*Kinder- und Hausmärchen. Gesammelt durch die Brüder Grimm. Mit Illustrationen von P. Grot Johann und R. Leinweber. Stuttgart u.a. 1893*)を忠実にロシア語訳したもので、グロート・ヨハンとローベルト・ラインヴェーバーの挿絵までそのまま入れられている。南部はグリム童話をドイツ語版からではなく、ポレヴォイのロシア語訳から重訳したのである。

(2) 本文の改変点

1点目は小人の描写がカラフルになっていることである。小人は赤い着物に青い帽子に銀色の髭を持つとされている。グリム版もポレヴォイ版も小人の外観の描写はない。2点目は小人に与える赤子の性別が男児にされていることである。グリム版では最初に産まれた“Kind”(子ども)、ポレヴォイ版でも“ребёнок”(赤子)であるのに、ここでは「男の子」と明記されている。3点目は名前を当てられた小人の結末を穏やかな表現にしていることである。「小人はがっかりして、眞青になって、こそ／＼遁げて行つてしまひました」としているが、グリム版でもポレヴォイ版でも「小人は怒りのあまり両手で左足をつかんで、まっぴたつに自分の体を引き裂いた」と表現されている。

南部はロシア語の底本に忠実に訳したのではなく、小人の服装を色彩豊かにし、王女が生む赤子の性別を男性にし、小人が自ら体を引き裂くという残酷な表現を穏やかな表現に改変している。

(3) 再話者について

南部修太郎(1892-1936)は土木技師の父の長男として宮城県仙台市で生まれ、1917年に慶應義塾大学文学科露文学を卒業し、1920年まで『三田文学』の編集主任を務める。芥川龍之介を師と仰ぎ、小島政二郎、滝井孝作、佐佐木茂索とともに「龍門の四天王」と呼ばれるが、1936年6月22日、43歳(満年齢)の若さで逝去する¹⁶。

2) No.3. 1919 (大正8)年4月 2巻4号 島崎藤村「小さな土産話 兎と針鼠」

(1) グリム童話由来である根拠

KHM187「兎と針鼠」の内容を簡略化したり改変したりしているが、針鼠が兎と競争して、自分の妻を使ってうまく相手を騙し、競争に勝つという話の骨子はグリム童話と同じである。

(2) 本文の改変点

冒頭文はグリム版より簡略化されている。また、「小さな土産話」という題名はグリム版にはない。2人が同時に競争しようと言ひ出したことになっているが、グリム版では針鼠が提案する。実行は明日の朝になっているが、グリム版では30分後である。74回やり直し、75回目に兎は倒れてしまうが、グリム版では74回目に倒れて、兎は喉から血反吐を吐いて動かなくなる。雄と雌の針鼠は勝利の獲物(兎)を巣に運んで食べるが、グリム版では勝利品は兎ではなく、「金貨とブランデー」である。グリム版にある女性蔑視的発言「女は黙ってる。これはおれの問題だ。男のすることに口出しするな」は削除されている。この点はジェンダーの視点から見て評価できる。最後の2つの教訓が削除されている。1つは、自分がどんなに偉くても相手を侮ってはいけない。もう1つは、嫁さんをもらうなら、同じ身分の似た

者同士に限るである。さらに、針鼠が死んだ兎を食べるというグリム版にはない表現が付加されているが、これは残酷な表現に該当しないと判断されたのであろう。

(3) 再話者について

島崎藤村の本名は島崎春樹（1872-1943）で、信州の庄屋の息子で明治学院卒業後に明治女学校の教員になる。ロマン主義詩人から小説に転じ、『破戒』や『春』で自然主義作家となる。藤村は姪のこま子との愛人関係を清算するため、1913年から1916年までフランスに留学し、1918年に帰国する。その後、こま子との愛人関係を告白した『新生』を発表して関係を清算する。1919年4月号に掲載されたこの話は、こま子との関係を清算した頃に執筆したものである¹⁷。

3) No.6. 1924（大正13）年2月 12巻2号 小野浩（鈴木三重吉）「正直もの」

(1) グリム童話由来である根拠

KHM39-1「小人I」と同様、実直な靴屋が貧乏になり、1足分の靴の皮しか買えなくなる。それを裁断して寝ると、翌朝、素晴らしい靴が完成している。靴が売れて2足分の皮を購入し、裁断して置くと翌朝、2足分の靴が完成している。そんな日々が続き靴屋は裕福になる。夜中に夫婦が隠れて見ていると、2人の小人の仕事であるということがわかる。夫婦は返礼として小人に衣服と靴を置いておく。小人は大喜びでそれを身に着けて立ち去り、2度と現れなくなる。その後、靴屋夫婦はお金に困ることはなくなる。話の骨子がグリム童話とまったく同じである。

(2) 本文の改変点

「昔、靴屋がいた」の冒頭部分は、グリム版よりも著しく簡略化されている。2人の小人はうすいぼろの着物を着ているが、グリム版では裸である。あくる日、爺さんと婆さんは毛糸で帽子、上下の着物、靴を作って置いておくが、グリム版ではシャツ、上着、チョッキ、ズボン、靴下を置いておく。小人たちは大喜びでそれを身に着けて、「おじいさん、ありがとう、おばあさん、ありがとう」とお礼の言葉を言って踊りながら帰っていくが、グリム版では小人たちは「おれたち ピカピカのかっこいい若者じゃないか。もう靴屋なんてやってられるか」と言うと、椅子の上を飛び越えて踊りながら外に出ていく。その後、爺さんと婆さんはお金に困ることはなくなったという表現は、グリム版では靴屋は、「一生幸せに暮らして、することなすことすべてうまくいきました」である。

(3) 再話者について

この話は鈴木三重吉が「小野浩の名にて発表」し、「ドイツのグリム」より翻案したものであると、桑原三郎が著書に明記している¹⁸。鈴木三重吉（1882-1936）は広島市猿楽町に生まれ、9歳で母を失う。東京帝国大学文学部英文学科在籍時、小説「千鳥」が夏目漱石の推薦で『ホトトギス』に掲載される。大学卒業後、中学校教師を務めた後、1916年に児童文学に専念する。1918年7月、児童文芸誌『赤い鳥』を創刊する。芥川龍之介、有島武郎、小川未明、島崎藤村、新美南吉など当時活躍していた作家に執筆を働きかけて、子どもたちに質の高い読み物を提供しようと試みる。同時に、子どもたちからも作品を募り、綴り方の指導をしながら優秀作品を紹介するという、画期的な児童文化運動を展開する¹⁹。

この話は「小波『裸の小人』におなじ」と桑原三郎が『鈴木三重吉の童話』に付記している²⁰。しかし、巖谷小波『お伽十八番』（1910）のなかの「裸の小人」は、原文にかなり忠実な訳で、小人も裸である。ただし服をもらった小人の言動は、「『これで當分休めるわ、靴屋さん萬歳々々！』と、云いながら又躍り上り、躍りながら宙を飛んで、また何所えか行つてしまいました」である。小波は三重吉のように小人の恩知らずの言動を削除して「感謝の言葉」を付加したりしていない。三重吉は小波訳を踏襲

したのではなく、子どもの教育を意図して自らグリム童話を再話したのである。

3. グリム童話に大きく改変が加えられた再話 (2話 No.4, No.5)

1) No.4. 1919 (大正8)年5月-6月,10月 2巻5-6号, 3巻1号 久保田万太郎「白い鳥の話」

(1) グリム童話由来である根拠

KHM49「6羽の白鳥」の内容にかなり改変が加えられているが、話の骨子はグリム童話を踏襲したものと見える。

(2) 本文の改変点

道に迷った王が道案内を頼むのは、「ぼつ／＼あるいて」来る婆さんだが、グリム版では「頭をガクガクさせながら」やって来る婆さんで、実は魔女だったという説明が入る。綺麗な娘に心を動かされて「神さまの思し召し」と思って王は結婚するが、グリム版では王は「娘を見るたびに心の奥でぞっとする」が仕方なく娘を娶る。王の行き先を家来に聞くとき、后は何も与えないが、グリム版では大金を握らせる。后が息子たちに投げかけるのはマントだが、グリム版では白い絹のシャツである。白い鳥はグリム版では白鳥と明記されている。妹の名はレベッカであるが、グリム版では名前の記載はない。妹が入り込んだ山小屋は「魔法使いの家」だが、グリム版では「泥棒の家」である。白い鳥が帰宅して王子の姿に変身するのは夜明け前だが、グリム版では日没前である。兄を見てレベッカは泣きじゃくるが、グリム版では喜ぶ。木の上にいるレベッカを隣国の王が見つけたとき、彼女は抵抗せず着衣のまま連行されるが、グリム版では金の鎖、ベルト、靴下止めなどを投げて狩人を懐柔し、半裸の姿で連行される。赤子を食べたレベッカに濡れ衣をきせるのは、年寄りの家来だが、グリム版では姑である。レベッカは秘蔵の手道具を盗んだ罪で起訴されるが、グリム版では赤ん坊を食べた罪で火刑が確定する。誣告した家来はこっそり逃げ出すが、グリム版では悪い姑は火刑に処される。最後に皆で後の実家に行くエピソードはグリム版にはない。

(3) 再話者について

久保田万太郎(1889-1963)は東京市で生まれ、1914年に慶應義塾大学文学部を卒業した小説家、劇作家、演出家、俳人である。大学時代に教授の永井荷風が創刊した『三田文学』に小説や戯曲を投稿し、1937(昭和12)年に岸田国土、岩田豊雄らと文芸座を結成し幹事を務め、日本演劇協会会長に就任するなど、幅広く活躍した人である。『赤い鳥』にこの話を書いた1919年は、彼が大学を卒業して5年目で慶應義塾大学の講師として作文を担当していた頃である²¹。

2) No.5. 1921 (大正10)年9月 7巻3号 ^{おさないかおる} 小山内薫「イルゼベルの望み 少年少女劇」

(1) グリム童話由来である根拠

KHM19「漁師とその妻」では妻の名前はイルゼビル(Ilsebill)であるが、ここではイルゼベル(Ilsebel)である。最初の英訳本であるエドガー・テイラー訳(1823)ではアリス(Alice)²²、2番目のテイラー訳 *Gammer Gretel* (1839)ではイルザビル(Ilsabill)²³、ウェーナー版(1853)²⁴とポール訳(1872)ではイザベル(Isabel)²⁵、ヴィッカーズ編(1861)ではジョアン(Joan)²⁶、ラング童話(1894)ではイルゼベルである²⁷。妻の名がイルゼビルではなくイルゼベルになっている点から、出典はラング童話と推測する。英語本を使用したと考えるもう1つの理由はソンドイクの家という表現である。ソンドイク(Thorndike)はマサチューセッツ州ビバリーにある美しい木造家屋が並ぶ歴史的住宅地区である²⁸。おそらく英語圏の文化に詳しい人が英語版を底本に再話したのであろう。ラングはこの話の出典

を“Grimm”と明記しているのので、グリム童話の再話と判断する。

(2) 本文の改変点

釣った魚は比目魚（かれひ）であるが、ドイツ語の **Butt** はカレイまたはヒラメと訳せる。カレイはすぐ綺麗な男になり、「雲の国の王」だと言い、真っ白な羽根を広げて飛び立つ。魚への呼びかけは「雲の国の王様雲の国の王様、もう一度帰つて来て下さい」で、妻が「あの街道のソオンダイクの家のやうな、気の利いた、暖かい、白く塗った家が一軒欲しい」と言うが、グリム版では夫が「こびと こびと ティンペ・テー／ひらめ ひらめ 海の中／おれの女房／イルゼビル／おれの言うこと／ききやしねえ [...] 小さい家が欲しい」と言う。

その後、妻の要求は、土地と村長の屋敷（グリム版では大きな石の館）、侯爵の城（グリム版では王）、王の城（グリム版では皇帝）、宇宙の主人（グリム版では神）とエスカレートし、最後はあばら家（グリム版では小便壺）に戻ってしまう。グリム版やラング版では皇帝の次に教皇が入るが、省略されている。世界を創造したキリスト教の神の概念が日本人には理解し難いからか、宇宙の主人と訳される。すべてのものは海から出現するが、その度に海の色は不気味に変化し波も高くなる。最後の望みを言うと、雲の国の王は「気をつける。イルゼベル。今度は望みが餘り大き過ぎたぞ」と忠告する。すると「では、女王で宜しうございます」と要求を取り下げるが、王は「駄目だ」と言って姿を消し、海は真っ黒になる。グリム版やラング版では、ヒラメの忠告も要求の取り下げもない。魚に要求を伝えるのは妻自身であるが、グリム版やラング版では夫である。神の意志は海の色で暗示され、濁った緑色、紫色、暗い灰色、真っ黒になり、最後は言葉ではなく、雷や稲妻や高波で表現される。

(3) 再話者について

小山内薫（1881-1928）は広島市出身で、1906（明治 39）年に東京帝大文科大学英文科を卒業し、演出家、劇作家、小説家として活躍する。在学中から西洋の文学や演劇を翻訳し、卒業後『新思潮』を創刊する。その後「自由劇場」を結成して、イブセンの『人形の家』を上演する。坪内逍遙らと共に日本における新劇運動の基礎を築く。関東大震災後の 1924 年に、ドイツから帰国した土方与志らとともに築地小劇場を設立し、ヨーロッパ近代戯曲の移入に努める。『赤い鳥』に掲載された童話劇は「人形」（オペラ「ニュルンベルク人形」）、「イルゼベルの望み」（グリム童話）、「ほくち箱」（アンデルセン童話）の 3 作である²⁹。「イルゼベルの望み」は「子供にやらせる児童劇」ではなく、「子供に見せる児童劇」として書かれたものである³⁰。

4. グリム童話を再話した他の作家の作品由来の話（2 話 No. 2, No. 9.）

1) No. 2. 1918（大正 7）年 11 月 1 巻 5 号 野上豊一郎「ボビノが王様になった話」

(1) グリム童話由来である根拠

これはアンドリュー・ラングの童話集 (*Andrew Lang's Fairy Books*) の灰色の童話集 (*The Grey Fairy Book*) に収録されている話「ボビノ」(Bobino) を訳したものである³¹。グリム童話 KHM33 「3 つの言葉」の類話である。グリム版同様、主人公が犬の言葉、蛙の言葉、鳩の言葉を修得し、そのおかげで出世する話である。主人公のボビノという名前はラング版にのみ出現し、グリム版には出現しない。

(2) 本文の改変点

商人の息子になっているが、グリム版ではスイスの伯爵の息子である。息子は利口で学問好きになっているが、グリム版では馬鹿で物覚えが悪い。息子が学ぶのは 1 回のみで、3 年間に鳥や犬などあらゆる動物の言葉を学ぶが、グリム版では 1 番目の師匠のもとで犬の言葉を 1 年間、2 番目の師匠のもとで

鳥の言葉を1年間、3番目の師匠のもとで蛙の言葉を1年間学ぶ。ボビノは牧場の番人の家に泊まり、犬の言葉から泥棒の襲撃を予言する。難を逃れた牧人はボビノと一緒に住んでくれと言うがボビノは断る。グリム版では息子が山城で宿を請うと、古い塔の下で夜を明かすよう言われる。山犬は人を食うはずだが、若者は犬の言葉がわかるので無事に夜を明かし、多くの金貨をもらう。その後、ボビノは農民の病気の娘の薬を蛙の言葉から発見して感謝される。彼は返礼品を受け取らず旅立つ。ボビノがローマの町に入ると、鷲がボビノの頭に止まったので、人々は彼を町の新しい王に推挙する。この内容はラング版の原文をほぼ忠実に訳したものである。しかし、町の市長が選ばれる (be chosen ruler of that town) を「王様の選挙」と訳し、市庁舎 (Governor's house) を「宮殿」と訳している³²。グリム版では若者がローマに入ると、白い鳩が両肩に止まったので教皇に推挙される。教皇というキリスト教の概念が王に改変されているのは、ラング版ですでに町の支配者 (市長) に変えられているからである。しかし、ここでは「市長」ではなく、「王」と改変されている。この本が出版された1918年には、まだ日本には市長を選挙で選ぶ仕組は存在しなかった³³。それゆえ町の支配者 (ruler) を市長ではなく王と訳したのであろう。グリム版では受け取る返礼品をボビノではすべて辞退するが、これはラングによる改変であり、野上による改変ではない。ラングは収集した昔話の出典や国名を表記しているが、ボビノに関しては出典の記載はない。グリム版から再話した話と思われるが、同じATU671に属する他の類話から再話した可能性も考えられる。

(3) 再話者について

野上豊一郎 (1883-1950) は大分県出身で、第一高等学校を経て東京帝大英文科に入学し、鈴木三重吉と同時期の1908 (明治41) 年7月に卒業する。大学院に進み、夏目漱石の門下生として創作や音楽に傾倒する³⁴。この話は野上が『赤い鳥』に書いた最初の話である。父から求められた学問をせず、自分の好きな「動物の言葉」を研究したボビノは、父には認められなかったが、よその土地では認められ大成功する。商人の息子である豊一郎が、文学というお金にならない学問に身を捧げることになるのを父から理解されないのと通底するところがある。そう考えると、彼がこの話を紹介した理由がわかるような気がする。

2) No. 9. 1927 (昭和2) 年 9月 19巻3号 内藤三雄 (鈴木三重吉) 「漁師と金の魚 (プーシユキン)」

(1) グリム童話由来である根拠

話の内容はアレキサンドル・プーシキン (1799 -1837) の「漁師と金の魚」とほぼ同じ内容である。プーシキンはグリム童話 KHM19 「漁師とその妻」を典拠にして書いているので³⁵、グリム童話由来ということになる。

(2) 本文の改変点

爺さんは魚釣り、婆さんは糸紡ぎをして暮らすのは、プーシキン版と同じだが、グリム版では妻の糸紡ぎはない。³³年間暮らしていたという記述は、プーシキン版にはあるが、グリム版にはない。金魚はプーシキン版では金の魚、グリム版ではヒラメである。人間の言葉で話す魚という表現はプーシキン版と同じだが、グリム版では魔法にかけられた王子と記載されている。1回目に要求するのは洗濯桶で、プーシキン版と同じだが、グリム版では快適な家である。2回目に要求するのは丸太作りの家だが、プーシキン版では農家で、グリム版では石の家である。3回目に要求する貴族の奥方は、プーシキン版と同じだが、グリム版では王である。4回目の要求は女王でプーシキン版と同じだが、グリム版では皇帝である。5回目の要求の海の女神はプーシキン版では海の支配者で、グリム版では教皇である。6回目

の要求はプーシキン版もないが、グリム版では神である。最後の要求を言うと、元のあばら家に戻るの
は、プーシキン版もグリム版も同じである。

(3) 再話者について

内藤三雄についての詳細は不明である。この話は内藤三雄の名で鈴木三重吉が発表したものであると
根本正義が明記している³⁶。英文科出身の三重吉はロシア語からではなく、おそらく英語訳から訳した
のであろう。

5. 出典は不明だが、グリム童話由来の可能性のある話 (2話 No.7, No.8)

1) No. 7. 1924 (大正 13) 年 9-10 月 13 巻 3-4 号 宇野浩二「不思議な金魚」

(1) グリム童話由来である根拠

丸尾美保は、この話はアーサー・ランサム著『ピーターおじいさんの昔話』に収録されている「金の
魚」より再話されたものであると指摘している³⁷。ランサムは様々なロシア民話から再話したというか
ら³⁸、この話はプーシキンの「漁師と魚の話」(1833)やアフナーシェフの「金の魚」(1835)から再
話した可能性がある³⁹。いずれもグリム童話 KHM19「漁師とその妻」(1812)を再話したもののなので⁴⁰、
間接的にグリム童話由来とみなすことが出来る。

(2) 本文の改変点 (略称: プーシキン P, アフナーシェフ A, ランサム R, グリム G, ラング L)

冒頭や結末の文章は加筆されていて異なるが、爺さん (P,A,R 爺⁴¹, G,L 夫⁴²)ではなく婆さん (P,A,R
婆, G,L 妻)が要求し、その要求がどんどんエスカレートしていく点は同じである。魚が人間の言葉を
喋り救済を求める点、妻の要求を夫が金魚 (R,A,P 金の魚, G,L ヒラメ)に伝える点も同じである。貧
しい漁師の妻が最初に要求するものは米や米櫃 (A パン, R パンとパン桶, P 洗濯桶, G,L 小さな家)に
している点が日本的改変といえる。新しい家 (R,A 新しい小屋, P 農家, G,L 石の城)、ご隠居さん (R
貴婦人, P 貴族, A 領主, G,L 王)、女の殿様 (R 女の王, P 女王, A 女皇帝, G,L 皇帝)など次々と高
位な身分を要求し、海の神 (R,P,A 海の支配者, G,L 神)になることを要求した途端、すべて消えて元
の木阿弥になってしまう。ランサムの話 (1918)はアフナーシェフとプーシキンの話との類似点が最
も多いが、この両者はいずれもグリム童話から再話しているので、グリム童話由来の話ともいえる。

(3) 再話者について

宇野浩二 (1891-1961)の本名は宇野格次郎で福岡市出身だが、2歳のとき父親が他界し、親戚を転々
とし、8歳から大阪で育つ。1910年(明治43)に早稲田大学英文科に入学するが、4年後に中退する。
『蔵の中』『苦の世界』で新進作家としてデビューするが⁴³、その後、精神異常に陥り入退院を繰り返す。
1933(昭和8)年に『枯木のある風景』で文壇復帰し、その後、菊池寛賞や読売文学賞など多くの賞を
受賞する⁴⁴。宇野は『赤い鳥』に積極的に投稿し、30回も掲載されている。

2) No. 8. 1926 (大正 15) 年 7 月 17 巻 1 号 大木篤夫「蠟燭をつぐ話」

(1) グリム童話由来である根拠

KHM44「死神の名付け親」では死神に名付け親になってくれるよう依頼する。死神のおかげで家族
(父親か息子)が高名な医者になり、地位と名誉とお金を獲得する。死神との約束を破ってベッドの位
置を変えてお金や地位を獲得する。死神を怒らせて最後は医者が死神に連れていかれる。話の骨子はグ
リム童話と同じである。

(2) 本文の改変点

晩年になって初めて生まれた子であるが、グリム版では 13 人目の子である。名付け親は「寺の女」が自ら家にやって来るが、グリム版では父親が探しに行き、神も悪魔も拒否し、平等だという理由で「死神」に名付け親を依頼する。「死」は寺の女だが、グリム版の「死神」は男である。寺で祝いの儀式をし、父親のマルチンを穴倉に案内し、命の蠟燭を見せる。グリム版では父親ではなく息子を案内する。マルチンは自分の蠟燭が消えかかっていたので、近くの蠟燭を半分折って自分の蠟燭につぎ足す。グリム版にはこのエピソードはない。「死」は父親を高名な医者にするが、グリム版では「死神」は息子を医者にする。「死」が病人の枕元に立つと死に、足元に立つと回復する。グリム版の第 2 版ではこれと同じだが、3 版以降決定版まで足元に立つと死に、枕元に立つと回復すると改変される⁴⁵。公爵が病気になる時「死」が枕元に立ったのに、ベッドを動かして足元に変えて回復させ、「死」を怒らせる。グリム版では王の場合と姫の場合の 2 回ベッドを回転させ、死神を欺いて病気を治す。父親は老齢になっても死なないのに、息子は若いのに死にかける。「死」はマルチンに洞窟で半分に折ったのは、息子の蠟燭だと知らせる。グリム版にはこの部分はない。マルチンはもう一度洞窟に行き、息子の蠟燭に自分の蠟燭を足して息子を救い、自分は死ぬ。グリム版では 2 回も欺かれて怒った死神は息子を洞穴に連れていき、消えかかった彼の蠟燭を見せて、取り替えるふりをして火を消す。息子は死ぬ。グリム版とはかなり異なる部分もあるが、同じ種類の類話である。

死神が女である点で、イタリアなどラテン系の言語の類話が採用された可能性がある。「死」はラテン系言語では女性名詞（伊：la morte, 仏：la mort, 西：la muerte）で、ゲルマン系言語では男性名詞（独：der Tod, 蘭：de dood）だからだ。オペラ化されたイタリアの「クリスティーナと代母」では、女の死神がベッドの近く（枕元）に立てば病人は死に、遠く（足元）に立つと治癒する。しかし、ベッドを回転させて死神を欺く行為はなく、寿命を示すのは蠟燭でなくランプ（Lucerna）である⁴⁶。グリム版では医者になるのは親ではなく息子であるが、治癒する薬草を教える点、死神の立つ位置で生死を判断できることを教える点、死神との約束を破ってベッドを回転させる点、蠟燭が出現する点など、この話と同じ要素が多く含まれている。北欧民話の再話であると『赤い鳥名作童話 8』の「あとがき」に書かれているが⁴⁷、具体的な国名や題名は挙げられていない。北欧の類話を調査したが、該当するものは見当たらなかった。仮に北欧民話から再話したとしても、グリム童話と同じ要素を多く含む類話の場合、収集時期が古いグリム童話（初版 1812 年）の影響を無視することはできない。

(3) 再話者について

大木篤夫（1895-1977）の本名は大木軍一である。広島市出身で銀行員を経て博文館に就職する。1922 年に妻の介護のため退職する。『赤い鳥』への掲載は 15 巻 6 号（1925 年 12 月）から 22 巻 2 号（1929 年 2 月）までで、16 話提供している。欧州、ロシア、中国の昔話の再話が多い⁴⁸。

第 3 章 『赤い鳥』に再話されたグリム童話の改変点

主な改変点は次の 10 点である。1. グリム童話では無名である登場人物に名前が付けられている。死神が医者にしてやる人物にはマルチン、白鳥にされた兄たちを救う王女にはレベッカ、犬、蛙、鳥の 3 種類の言葉を理解する息子にはボビノと名前が付けられている。2. 裸体を嫌う傾向がある。グリム童話では裸の小人や半裸の王女が出現するが、すべて着衣して出現する。白鳥に変身させられた 6 人の兄たちに妹のレベッカが投げかけるのは、シャツではなくマントである。白鳥が人間の姿に戻るとき、シャツは裸の素肌が見えるが、マントは上に羽織るので裸が見えないからであろう。3. 残酷な表現を避ける。

小人が自分の体を2つに裂くという表現は、こっそり逃げるといった表現に変えられる。人食いの罪は窃盗罪に改変され、罪人は火刑に処されず、こっそり逃がされる。4. 賄賂の授受を削除する。後は家来に賄賂のお金を渡して王の秘密を聞き出すが、お金を渡さずに聞き出す。5. 「幸せになりました」という表現を「お金に困ることはなくなりました」と書き変えている。6. 悪い姑の存在を消す。嫁を苛める人物を姑から家来に改変し、悪い姑の存在を削除している。7. 伝統的婚姻の風習を挿入する。王が后と結婚後、後の実家に行く場面が加筆され、日本の伝統的婚姻の慣習に合致するよう配慮している。8. 教訓を削除する。「相手が針鼠のような取るに足らない相手でも、あなどってはいけない」という教訓や「お嫁さんをもらうなら、同じ身分の似た者同士にかぎる」という教訓が削除される。9. 贈り物に対する返礼の言葉が加筆される。異界の存在である小人は贈り物の衣服を着るや否や、自分の姿に見とれて、仕事なんかやられるかと外に繰り出す。それが「おじいさん ありがとう おばあさん ありがとう」とお礼の言葉を残して立ち去ると改変される。10. キリスト教の概念を削除する。教皇や天地創造の神という言葉が削除されている。グリム版では息子は教皇にまで昇り詰めるが、ボビノの出世は国王で終わる。漁師の妻は神になりたいというのが、海の支配者という表現に変えられる。11. 登場人物の服装を色鮮やかにする。小人の服装に関する描写が加筆され、真っ赤な着物を着て鳥の羽根の着いた青い帽子を被った可愛い小人にされる。12. 王家に生まれてくる赤子の性別を男子にする。最初に生まれた子という表現が、「男の子」と性別が特定される。13. ジェンダーの視点から見て不適切な表現、「女は黙ってろ。[・・・] 男のすることに口出しするな」という針鼠の夫の発言が削除されている。

第4章 改変についての分析と考察

登場人物に西洋の名前を付けて、西洋の昔話であることを強調しているが、礼儀作法や婚姻の風習などは日本的道徳に適合するよう改変している。小人という異界の存在であっても、贈り物をもったら、礼も言わずに飛び出さず、「ありがとう」と感謝の言葉を言うよう改変している。教訓を削除しながら、感謝の言葉を加筆して教育的意図による改変をしているのである。「兎と針鼠」に添えられた「たとえどんなに取るに足らない相手でも、あなどってはいけない」という教訓は、子どもにとって大切なものと思われるが削除される。外面的な礼儀作法の方が人生訓より大切と判断しているのではなく、「教訓」として加筆されたものはすべて「註譯的、説教的態度」⁴⁹として排除しているのである。

総じて残酷な表現は削除または改変されている。名前を当てられた小人は自ら体を引き裂くが、こっそり逃げ出すと改変される。人食いの罪は窃盗罪に改変される。無実の后を誣告した姑は火刑に処せられるが、泥棒の罪を誣告した家来は逃がされる。一方、残酷な表現に改変している個所も存在する。競争に勝って手に入れる賞品は、グリム版では「金貨とブランデー」だが、負けて血を吐いて「死んだ兎」であり、針鼠夫婦はそれを食べるのである。動物の世界では生存競争に負けると喰われるのが当然と判断したからであろう。それにしてもグリム版の原文にない表現をわざわざ付け足す必要がどこにあるのだろう。「ボビノが王様になった話」は、グリム童話「3つの言葉」の類話であるが、犬、蛙、鳥の言葉を修得した息子は、父親には理解されないが、世間に出て教皇にまで昇り詰める。この話には実学ではなく高尚な学問をすると、直ぐには役に立たないが、長い人生のなかで必ず役に立つものであるというメッセージが秘められている。ボビノは国王まで出世するが、ラング版では市長、グリム版では教皇まで出世する。この話の最後のエピソードは実話として伝承されている話の引用だという。1198年インノケンティウス III世が教皇に選ばれたとき、1羽の白い鳩が彼の右肩に留まったと語り継がれているとボルテ／ポリフカが『グリム童話の注釈書』で指摘している⁵⁰。ヤーコプ・グリムも白い鳩が頭や肩

に留まり神の意志を伝えると信じられていたと『ドイツ神話学』で述べている⁵¹。

「蠟燭をつぐ話」の死神は女であるので、北欧の運命の女神（ノルン）かもしれない。アイスランドの「ノルナゲスト伝説」でも人の命が蠟燭で表されているが⁵²、話の内容はまったく異なる。大木版では死神のおかげで人の生死を判断できる名医になるなど、グリム童話との類似点が多い。死神が枕元に立つと患者は死に、足元に立つと治るのはグリム童話の2版と同じである。1605年のアイラー（Jacob Ayrer 1563-1605）の謝肉祭劇（Fastnachtspiel）や1644年のニュルンベルクの職匠歌人（Meistersinger）の謡では足元が死ぬとなっている⁵³。古い文献を確認したグリム兄弟は、3版以降で足元が死ぬと改変する。大木はグリム版の2版とイタリア版の話をもじって再話した可能性もある。

森の木の上にいる姫を見つけて、グリム版では王はすぐ結婚するが、ここでは聾啞者ではなく、王家出身者であることが判明して初めて結婚に踏み切る。結婚後、嫁の実家に行くという、グリム版にはないエピソードが加筆されるのは、嫁の両親が許可しない結婚は無効であるという、当時の日本の婚姻法を踏まえたものであろう⁵⁴。悪い姑が出現しないのも、姑は家庭内で敬うべき存在であるという家制度を重視する日本的道徳からの改変と判断する。

西洋の文化を正しく伝えていないことに憤りを覚えて出版された画期的な児童雑誌であるのに、西洋文化をそのまま伝えているわけではない。嫁姑問題は削除され、日本的慣習や礼儀作法などの加筆が巧みに話のなかで行われている。嫁姑問題に触れる西洋昔話をそのまま提供しないのは、将来は妻となり母となる女の子に結婚後の生活の苦しみを伝えるべきではないという判断からであろう。鈴木三重吉は、女は妻となるべく、母となるべく生まれてきたのであり、それは「人間の本能的要求」であるという⁵⁵。それゆえ、嫁いびりする「悪い姑」の存在は消され、女の子に結婚して妻になり母になるのをためらわせることがないよう配慮されたのである。

「幸せになりました」を「お金に困ることはなくなりました」と書き変えたのはなぜなのだろう。子どもにとって幸福とは、お金の有無ではなく、好きなことに没頭すること、好きなものを集めること、好きなものを腹いっぱい食べることなどではないだろうか。何を幸福と感じるかは、大人でも人によって異なる。「幸福」という漠然とした表現のほうが、はるかに空想を掻き立てられるのではないだろうか。空想の重視を主張しながら、そうではないのは題名の改変からも推察できる。「小人」という題名が「正直者」に改変され、正直な靴屋に焦点が当てられている。「死神の名付け親」が「蠟燭をつぐ話」に改変され、異界の存在である「死神」ではなく、人間の愚かな行為に焦点が当てられている。重点を異界の空想上の存在から、人間に移しているのである。これらの改変は、純粋無垢な存在である子どもに教訓性を排した純粋な文学を与えて、空想力を養うという編集方針に矛盾しているのではないか⁵⁶。

本論では取り上げなかったが、『赤い鳥』（3巻4号）で西条八十が「お菓子の家」という題で KHM15「ヘンゼルとグレーテル」の童謡を書いている。そこでは飴、チョコレート、麦落雁、ビスケット、カステイラ、金平糖でできたお菓子の家が登場し、「ここにとまってよいものは ふたおやのないこどもだけ」と謡われている⁵⁷。つまり、「魔女の家」が「児童養護施設」に改変されているのだ。親に捨てられた子どもが森の中で危険や魔女に打ち勝ちながら逞しく成長していく話ではなく、「お菓子の家」で保護されながら楽しく過ごす話に改変されているのである。ここに『赤い鳥』の編集方針が端的に現れているように思われる。ようするに、この雑誌は児童の成長にではなく、児童が「童心」を保持することに主眼を置いた児童雑誌なのである。

結論

グリム童話にある火刑、人食いの罪などの残酷な表現を削除したのは、『赤い鳥』の読者である児童に相応しくないと考えたからであろう。事実、小山内薫は「犬が噛み殺すといふのが吠え着くという風に直した。これは子供に恐怖心を起こさせない為の注意だった」と述懐している⁵⁸。『赤い鳥』が目指したのは子どもが怖がらない本、衣服を脱がず、姑の嫁いびりもなく、身分違いの結婚もなく、悪に対する暴力的制裁もない西洋昔話を子どもに与えることだったのである。グリム童話集には211話⁵⁹のメルヒェン (Märchen) が収録されているが、赤い鳥に収録されている9話はさほど子ども向きなものとは思われない。その典型が「漁師とその妻」である。この話はプーシキンやアフナーシェフなどによるグリム童話の再話も含めて3回も収録されている。

アルニム (Achim von Arnim 1781-1831) はグリム兄弟にこの話は子ども向きでないから童話集に収録しないよう忠告している。„Das Fischer-Märchen aber, so teilte er mit, wolle er zurückstellen, weil es ihm kein ‚eigentliches Kindermärchen‘ zu sein schien.“⁶⁰ (漁師のメルヒェンは「本来子ども向きのメルヒェン」ではないように思われるから、収録しない方がいい。【拙訳】) ルングから送られてきたボンメルン方言のこの話は、実は標準ドイツ語で語られていたものをルングが方言に直したものであり、本来の語りに大きく手を加えたものなのである⁶¹。笑い話 (Schwank) なので、『子どもと家庭のメルヒェン集』に収録すべきではないという忠告にもかかわらず収録したグリム兄弟は、ルングの方言テキストに魅せられ、模範的な口承メルヒェンと思い込んだのである⁶²。

それにしても『赤い鳥』がこの話を3回も収録しているのはなぜなのだろう。「女の欲深さ」を「人間の欲望」と解釈して子どもたちを戒めるためなのだろうか。古くから様々な形で傳承されているこの話は、1814年にベルリンでは逆転したジェンダーで語られていたという。つまり、地位の階段を昇り詰めて没落したナポレオンの伝記として多くの人々に語られていたというのだ⁶³。小屋から石の家までは女性の要求として違和感はないが、王 (der König)、皇帝 (der Kaiser)、教皇 (der Papst)、神 (der Gott) はすべて男性名詞である。女性枠がないそれらの地位に女性が就きたいと願うこと自体不自然であり、男性の傲慢さを体現したものであるとレレケは言う⁶⁴。それゆえ、この話はフィクションであり、笑い話とされていたのであろう。

『赤い鳥』で忌避された要素は、残酷さ、悪い姑の存在、礼儀作法に反する言動、教訓などである。重視された要素は罪人を厳罰に処さずに許すこと、服装を色鮮やかにすること、女の子ではなく、男の子の啓発に主眼を置いていることなどである。しかし、女性に対する不適切な発言は削除するなど、ジェンダーの視点からの配慮もなされている。ただ、姑に対する悪口はメルヒェンのなかといえども削除される。また、ファンタジーを重視すると公言しながら、ファンタジーが掻き立てられる小人や死神などの異界の存在は題名から外され、「幸福になる」という表現は、「金に困ることはなくなる」という現実的表現に改変されている。『赤い鳥』に収録されたグリム童話の再話を読むことによって、子どもの美しい空想や感情を育てる詩心が本当に育つのであろうか。

ジェンダーの視点から『赤い鳥』を考察すると、収録された話のなかの娘は課された仕事が出来ず、ただ泣くだけの娘 (KHM55) と無口でひたすらシャツを縫う娘 (KHM49) である。年配の女は強欲な妻 (KHM19) しか出現しない。グリム童話のなかには魔女を成敗して兄を救う妹 (KHM15 ヘンゼルとグレーテル) や、裏切った婚約者を取り戻すため困難辛苦を乗り越える娘 (KHM56 恋人ローラント) など、積極的に行動する娘も出現するが、その種の話は1話も収録されていない。「ヘンゼルとグレーテル」は収録されてはいるが、まったく異なるコンテクストのなかで、楽しい「お菓子の家」の童話と

してのみ紹介されている。さらに、王家に生まれた「第一子」の性別を「男子」と特定するなど(KHM55)、相続権のない「女子」の誕生を望まない日本の時代的風潮を体現した改変もなされている⁶⁵。

ようするに、『赤い鳥』のなかのグリム童話は、日本の家庭の道徳観、伝統的女性観などに適合するよう改変され、日本の学校の教育方針に沿った「教育的童話」として再話されているのである。

注

- 1 鈴木三重吉「赤い鳥の標榜語」『赤い鳥』第1巻 第1号 赤い鳥社 1918年6月 最初の頁。
- 2 赤い鳥事典編集委員会編『赤い鳥事典』柏書房 2018年 1頁。日本児童文学学会編『赤い鳥研究』小峰書店 1965年 69頁。
- 3 上野浩道「大正期芸術教育運動の一考察」日本教育学会編『教育学研究』39巻1号 1972年 32頁。
- 4 再話とは「昔からの物語や伝説・民話などを、主として子供向きにわかりやすく書き直すこと。」松村明編『大辞林』三省堂 1988年 951頁。
- 5 丸尾美保「雑誌『赤い鳥』掲載のロシア関連作品の考察」『梅花児童文学』10号 2002年 67-85頁。
- 6 佐藤宗子『家なき子の旅』平凡社 1987年 資料『赤い鳥』のフランス物（民話なども含む）。
- 7 渡辺茂男「『赤い鳥』と外国文学」日本児童文学学会編『赤い鳥研究』1965年 157-169頁。
王玉「雑誌『赤い鳥』における「殺す」「殺される」問題：欧米昔話再話作品を中心に」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』14号 2014年 83-104頁。
- 8 佐藤宗子 前掲（注6）16頁。『赤い鳥』の読者からの「もっと日本固有のものをお取り扱い下さい」という投書（『赤い鳥』1巻12号 76頁。通信欄）に三重吉が対応して、西洋昔話を日本昔話に翻案した話であるという。
- 9 平左はぞっとするというこの意味を理解できないまま終わるが、グリム版では小魚入りの水を寢床で妻にかけられて、その意味を理解して終わる。結論だけでなく、怖さを体験する過程も話の内容も背景も完全に日本風に変えられているので、グリム童話の痕跡は残っていない。
- 10 KHMはグリム童話の正式名 **K**inder- und **H**ausm^archen の略称で、その後に収録番号を記す。
- 11 鈴木三重吉編『赤い鳥』第1巻 第5号 赤い鳥社 1918年11月 77頁。
- 12 丸尾美保 前掲（注5）69頁。
- 13 鈴木三重吉『鈴木三重吉童話全集』文泉堂書店 1975年 附言3頁。
- 14 Lang, Andrew, *The Yellow Fairy Book*. In: *The Complete Fairy Book Series*. UK 2003. pp. 271-272. ラングは From the Polish. Kletke. とのみ記載。Kletke, Hermann(1813-1886): *Märchen meiner Großmutter*(1851). *Ein Märchen-Buch* (1864/69), *Märchen am Kamin*(1873).などを出版。
- 15 Пётр Николаевич Полевой, *Сказки, собранные братьями Гримм*. Санкт-Петербург 1895.
なお、ロシア語の解説には丸尾美保氏に指導を仰いだ。
- 16 『赤い鳥事典』前掲（注2）201頁。
- 17 『20世紀日本人名事典 あ～せ』日外アソシエーツ 2004年 1258頁。
- 18 桑原三郎『鈴木三重吉の童話』私家版 1960年 169頁。
- 19 『20世紀日本人名事典 あ～せ』前掲（注17）1372頁。
- 20 桑原三郎 前掲（注18）169頁。
- 21 『20世紀日本人名事典 あ～せ』前掲（注17）925頁。『赤い鳥事典』前掲（注2）177頁。
- 22 *German Popular Stories*. Translated by Edgar Taylor from the *Kinder- und Hausmärchen*, collected by the Brothers Grimm. London 1823. pp. 27-38.
- 23 *Gammer Grethel*. Translated by Edgar Taylor. London 1839. pp. 6-13.
- 24 訳者名未記載なので、挿し絵画家 Wehnert 版と表示する。*Household Stories*. Collected by the Brothers Grimm. Newly Translated. With 240 illustrations by Edward H. Wehnert. Vol. 1. London 1853. pp. 92-96.
- 25 *Grimm's Fairy Tales*. A new translation by Mrs. H. B. Paull. Specially adapted and arranged for young people. London.1870 (1868) pp. 101-107.
- 26 Sutton, Martin, *The Sin-Complex*. Kassel 1996. p. 314.
- 27 Lang, Andrew, *The Grey Fairy Book*. op. cit., (note 14) pp. 244-244.
- 28 キャプテン・ジョン・ソーンダイク・ハウスはマサチューセッツ州ビバリーの国家歴史登録財の家。

- National Register of Historic Places <https://npgallery.nps.gov/NRHP> (閲覧日:2022年8月10日)
- 29 『赤い鳥事典』前掲(注2)162-163頁。
- 30 同上1頁。
- 31 Lang, Andrew, *The Grey Fairy Book*. op. cit.,(note 14), pp. 413-415.
- 32 Ibid., p. 204.
- 33 市長を選挙で選ぶようになったのは、市町村会議員に普通選挙制が導入された1926年以降である。
- 34 『赤い鳥事典』前掲(注2)202頁。
- 35 『赤い鳥事典』前掲(注2)275頁。
- 36 根本正義「鈴木三重吉のロシア文学への関心」『日本児童文学』第25巻6号 日本児童文学者協会 1979年48頁。
- 37 丸尾美保「アーサー・ランサム著 *Old Peter's Russian Tales* に基づく宇野浩二のロシア昔話再話考」『梅花女子大学心理こども学部紀要』6号 2016年6-16頁。
- 38 同上7頁。
- 39 アレクサンドル・プウシキン著 平井肇訳『プウシキン全集』第5巻 改造社 1937年249-261頁。
The Complete Folktales of A. N. Afanas'ev. Edited by Jack V. Haney. Mississippi. 2014. Vol. 1, pp. 116-118.
- 40 *Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm*. Hrsg. v. Friedlich Panzer. Wiesbaden 1953. pp. 100-105.
- 41 Ransome, Arthur, *Old Peter's Russian Tales*. California 2007. pp. 117-125.
- 42 Lang, Andrew, *The Green Fairy Book*. op. cit.,(note 13), pp. 242-244.
- 43 『赤い鳥事典』前掲(注2)152頁。
- 44 同上『20世紀日本人名事典 あ〜せ』前掲(注16)404頁。
45. Brüder Grimm, *Kinder- und Hausmärchen*. Hrsg. v. Heinz Rölleke. Stuttgart 1980. Vol. 3, p. 70.
- 46 西本晃二『落語「死神」の世界』青蛙社 1996年297,312-313頁。ランプ(Lucerna)が出現する。
- 47 赤い鳥の会編『赤い鳥名作童話8』小峰書店 1982年あとがき。
- 48 『赤い鳥事典』前掲(注2)158頁。
- 49 久米の「うそ」はメリメ作「マテオ・ファルコオネ」を上手く日本化して童話にしたもので、「何等の註譯的、説教的態度を取らずして、あれだけの印象を興へたのは、久米さん自身の芸術の価値です」と記者(三重吉)は書いている。『赤い鳥』第2号 第5巻 通信欄 1919年5月76頁。
- 50 Bolte, Johannes und Polívka, Georg, *Anmerkunge zu den Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm*. Vol.1, Hildesheim, New York 1982(1st.1963) pp. 324-325.
- 51 Grimm, Jacob, *Deutsche Mythologie*. Berlin 1968 (1st.1875-78). p. 135.
- 52 ブレードニヒ著 竹原威滋訳『運命の女神』白水社 40-41頁。
- 53 Bolte, Johannes und Polívka, Georg, op.cit.,(note 50), p. 380.
- 54 1899年(明治32)年に制定された旧民法では、婚姻は家と家との契約であった。したがって、婚姻には、常に家長である戸主の同意が必要とされた(旧750条)。さらに、男は30歳、女は25歳になるまでは、父母の同意も必要であった。(旧772条1項)
- 55 鈴木三重吉『鈴木三重吉全集』第5巻 岩波書店 1938年315-316頁。
- 56 日本の童話には「西洋ものゝ如く、豊富な空想がない」と小池宛の手紙で述べている。(大正9年4月18日 在米小池君へ) 鈴木三重吉『鈴木三重吉全集』第6巻97頁。
- 57 西条八十「お菓子の家」『赤い鳥』3巻4号 1919年10月48頁。
- 58 小山内薫『三つの願ひ』イデア書院 1925年2頁。
- 59 グリム童話の番号は210番で終わっているが、151番がダブっているので、合計数は211話となる。
- 60 Uther, Hans-Jörg, *Handbuch zu den Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm*. Berlin, New York 2008. p. 42.
- 61 Ibid.
- 62 Ibid.
- 63 Ibid., p.18. Bolte, Johannes und Polívka, Georg, op. cit., Vol.1, p. 188.
- 64 Rölleke, Heinz, *Der Wahre Butt*. Düsseldorf 1978. p. 18.
- 65 1873(明治6)年7月22日に太政官布告第263号が發布されて、華族や士族に対して長男の家督相続制が日本史上始めて法的に規定される。石井良助『日本相続法史』創文社 1980年91頁。